
Dynavector DV507MKII Tonearm

取扱説明書



ダイナベクター株式会社

1. はじめに

この度は、ダイナベクター・トーンアーム DV507MKII を、お買い上げいただき誠にありがとうございます。DV507MKII はレコード音溝に記録された信号を、カートリッジを通じて忠実にアンプへ送りこむよう設計された、数々の新しい機構を備えた高性能トーンアームです。

DV507MKII では質量分離型の初代モデル DV505 の利点を継承しつつ、DV507 から MKII へと数々の改良が加えられ、使い勝手も大きく向上しております。本アームの持つ能力を最大限を引き出すためには、若干の調整と正しい使用方法が欠かせません。ご使用前に本取扱説明書をよくお読みの上、正しい設置と調整でご使用ください。

2. 質量分離型トーンアームとは

トーンアームのふたつの大きな役割、すなわちカートリッジの針の動きを正確な電気信号に変換させるため、カートリッジ本体を振動させることなく確実に支持すること、レコードのそりにも十分追従する優れたトレース性能を持つこと。質量分離型トーンアームは一見相反するこの課題を合理的に且つ理論的に解決した理想的なトーンアームです。

DV507MKII では、水平方向には十分な慣性質量を持たせることで、カートリッジに対し静的に安定した支持を実現しています。垂直方向では非常に小さな慣性質量をもたせることで、従来のアームでは再生が困難であった大きなそりを持つレコードでも針とびを起すことなくトレースができます。

カートリッジの再生音に大きく影響するアームの低域共振に対しても十分な考察を加え、うず電流を利用した、経年変化のない非接触電磁粘性ダンパーを搭載しています。この強力な電磁ダンパーの採用により、低音の再生音に影響を与える低域共振を押さえ込むとともに、優れたトレース性能とを両立させています。

DV507MKII のおもな改良点

■高精度オールステンレスベアリング採用

厳選した精密級ベアリング採用により、経年変化のない良好な動作感度と安定したトレース性能を長期間維持します。

■非接触型電磁粘性ダンパー

強力なネオジム磁石を新規採用することにより、アームのトレース性能を損なう低域共振をより一層抑えています。

■大型アームリフター採用

安定した動作とともにその性能を長期間維持でき、カートリッジの上げ下げ時のストレスを解消します。

■取り外し可能なヘッドシェルコネクター採用

ヘッドシェル接触ピンや出力ピンにはすべて接点不良防止効果の高いロジウムメッキを採用。

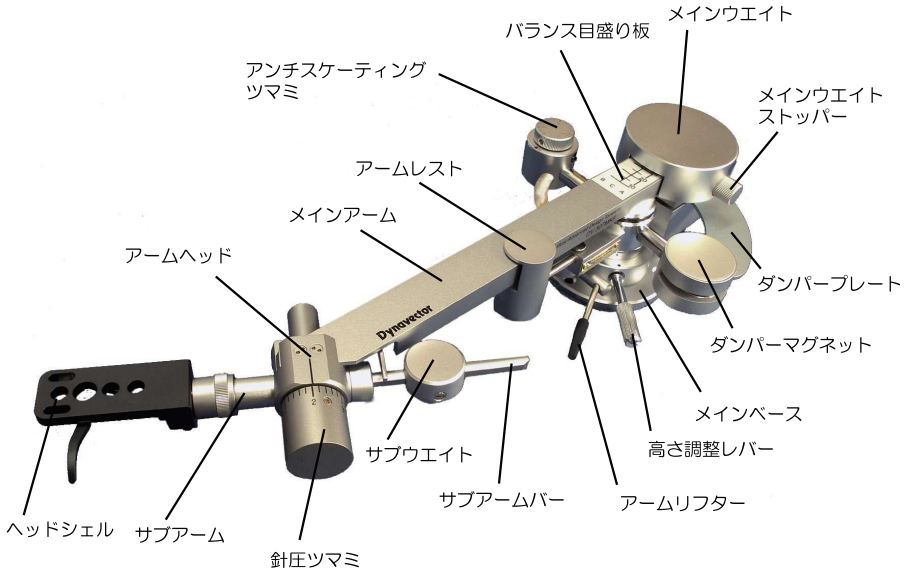
■新型ヘッドシェル標準付属

アジマス調整可能な、EIA 規格高剛性アルミ削り出しヘッドシェル。リード線は4N/6N ハイブリッド線を採用。

■高級アームコード標準付属

ダブルバランス・シールド4N/6N ハイブリッド線採用の新アームケーブル。5PIN コネクター部は DIN 規格に準拠。

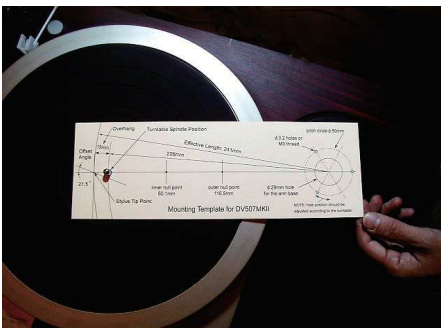
3. 各部の名称



4. ターンテーブルへの取り付け

本機の取り付けにはターンテーブルボードの所定の位置に直径 29mm の孔を開けます。孔位置は付属の紙テンプレートをを用いて決定してください。このときメインベース取り付け孔センターからターンテーブルのスピンドル中心までの距離は 226mm になります。

孔を開けた後、アーム本体をこの孔に振り置きします。このときアームの各部分がターンテーブル本体に接触しないよう、アーム本体を左右に振り収まりの良い角度を決定してください。アームの設置位置が決まった後は、メインベースを固定するの小孔の位置 3 箇所に印をつけ、そこにキリ等の先の鋭い工具で下穴をあけ付属の本ネジで固定します。正確な取り付け位置出しは容易ではありませんが、特に高さ方向の取り付け誤差が出やすいので注意が必要です。



5. 出力コードの取り付け

付属の出力ケーブルは、カートリッジの信号をロスなく伝送できるハイグレードなアームケーブルです。5ピンのDINプラグ側をアーム下部の出力端子に差し込み、RCAピンプラグ側はヘッドアンプやプリアンプの入力部に接続します。アームケーブルのアース線はターンテーブルやヘッドアンプ等のアース端子に適時接続してください。

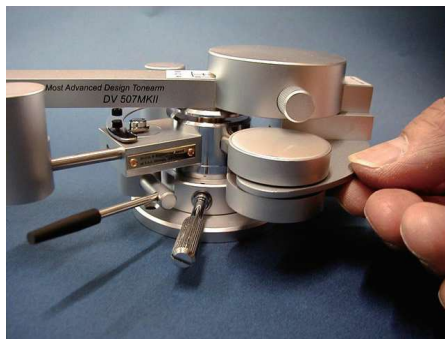
6. 各部の調整と使用方法

カートリッジをアームに取り付ける際は、いくつかの事前チェックと調整が必要です。下記の手順に従い、正しく行ってください。

6-1. ダンパープレートの接触チェック

本アームではアームの低域共振を抑えるため、渦電流を利用した非接触型の電磁ダンパーを採用しています。メインアームを指先でつまんで静かに左右に動かし、ダンパープレートがダンパーマグネットの間隙（ギャップ）に接触せずスムーズに回転することを確認してください。

出荷検査でも万全を期していますが、万が一ダンパープレートがダンパーマグネットに接触しているときは、カートリッジトレース性能に重大な影響を及ぼします。そのままの使用は避け、お手数ですが販売元に連絡を取り、修理を依頼してください。

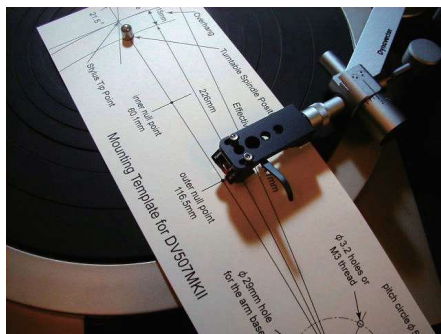
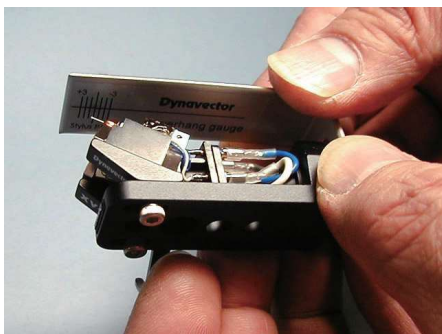


6-2 カートリッジの取り付け

a) 付属のヘッドシェルにカートリッジを取り付けます。取り付けネジはカートリッジに付属している M2.5 か M2.6 ネジを使用します。オーバーハングの微調整が必要となりますので、ネジは多少緩めの仮止め程度にしておきます。ヘッドシェルへのリード線の接続はカートリッジの取扱説明書に従ってください。

(b) オーバーハングの調整

オーバーハングとはアームをターンテーブルのスピンドルまで持ってきたとき、カートリッジ針先位置とスピンドル中心までの距離を指します。本機では最内周で水平トラッキングエラーが最小になるようにオフセット角が設定されており、本機がターンテーブルに対し正しい位置にマウントされているとき、オーバーハングは15mmとなります。ヘッドシェルにカートリッジを装着する場合には付属のオーバーハングゲージを使用し、正確にオーバーハングを調整してください。

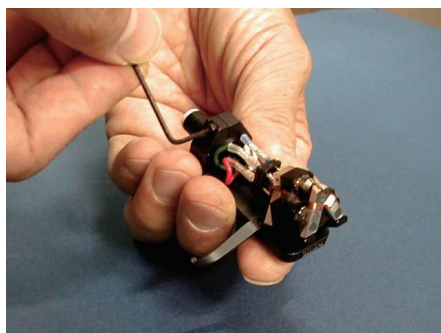


NOTE: 付属のアーム取付け用紙テンプレートのを使用することで、オーバーハングが正確に調整されているか確認できます。オーバーハングが正しく調整されているときは、針先位置がテンプレートの内側0点位置と外側0点位置に一致し、ヘッドシェル対しても平行になります。

(c) アジマスの調整

正面から見て傾きがないようにカートリッジをヘッドシェルに固定します。付属のヘッドシェルは回転方向の微調整（アジマス調整）が可能です。必要に応じ固定ネジを緩め調整してください。アジマス調整はヘッドシェルをアームに装着した状態で行う方が正確且つ容易です。

NOTE: オーバーハングやアジマスが正しく調整されていないと、トレース歪みの原因となります。



6-3 ヘッドシエルの取り付け

ヘッドシエルをアーム本体に取り付けしっかりと固定します。針先にダメージを与えないよう、必要に応じ針カバーを装着してください。



6-4 メインウエイトの調整

本アームでは水平方向と、垂直方向の動きが完全に独立しており、水平方向は他のアームに比べて大変大きな慣性質量を持っています。この為メインアームを感度よく回転させるには、メインウエイトの前後バランスを正しく調整する必要があります。

メインウエイトの位置は、使用するヘッドシエルとカートリッジの重さの合計（総重量と呼ぶ）により調整します。はじめに総重量を計算してください。次に下記の表より総重量に対し、適切なサブウエイトA, B, Cを選んでください。

総重量	サブウエイト種類
15 - 23 g	A
20 - 33 g	C
25 - 35 g	B

付属ヘッドシエル重量 15.4g

メインアーム後部には使用するサブウエイトの種類別に目盛が符ってあります。この目盛りにメインウエイト前端部を、先に調べた総重量に合わせます。

(例) 総重量が 20gであればサブウエイトA を使用し、メインウエイト前端部を A の目盛の 20 の位置に合わせればよいことになります。

NOTE：ターンテーブルとアームの水平度が取れているときは、それほど厳密なメインウエイト調整は必要ありません。



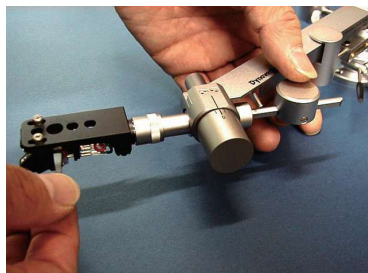
6-5 針圧の印加

サブウエイトを左右の向き（ネジが外側を向くよう）に注意し、サブアームバーに差し込みます。下記の手順に従い針圧を印加します。

(1) 針圧ツマミの目盛を 0 に合わせ、サブウエイトを前後にスライドさせて、ヘッドシェル側とサブウエイト側の重量がバランスするように調整します。

(2) バランスがとれましたら、針圧ツマミを右に回し、カートリッジの適正針圧に見合う針圧を印加します。

(3) 針圧目盛は 0.2g 刻みで目盛は針圧に比例しています。適正針圧はカートリッジ取扱説明書に従ってください。



NOTE：まず印加したい針圧よりやや大きな針圧までツマミを回した後、ツマミを少し戻すようにするとより正確な針圧が印加できます。



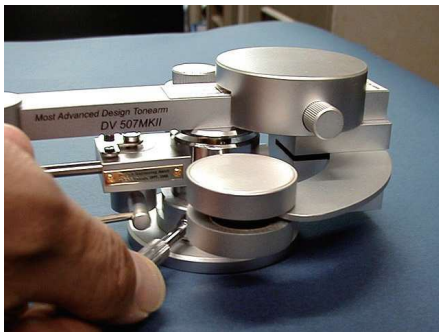
NOTE：本機の針圧機構は時計級精密渦巻きバネを使用していますが、0 バランスの取り方などで多少の誤差を生じることがあります。より厳密な針圧を印加するときには市販の精密級針圧計を併用ください。

サブウエイトバーは先端に力を加えると上下左右にわずかに動きますが、これは分割共振を抑えるためダンピングをかけているためで、軸受等のガタではありません。



6-6 アームの高さ調整

- (1) アーム本体横にある高さを調整ネジ（マイナスネジ）を緩めて、アーム全体を持って上下させ、サブアームとレコード面がほぼ平行になる位置を決定します。
- (2) この位置で調整ネジをしっかりと締め付けます。
- (3) 高さの微調整は高さ調整レバーで行います。調整レバーを動かす前にレバーを半時計方向に廻し緩めてください。
- (4) 調整レバー緩めた状態で、レバーを左右に動かすことで、アームの高さがスムーズに上下することを確認してください。
- (5) 実際にカートリッジ針先をレコード盤に乗せ、ヘッドシェル上面がレコード面と平行になるようレバーを動かし高さ調整します。
- (6) 最適な高さが決まりましたら、その位置で調整レバーを時計方向に回し固定してください。
- (7) 調整レバーを左右に動かすことで、約 7mm の範囲で微調整が可能です。それ以上の高さ調整が必要な場合は、(1) の高さを調整ネジで行います。



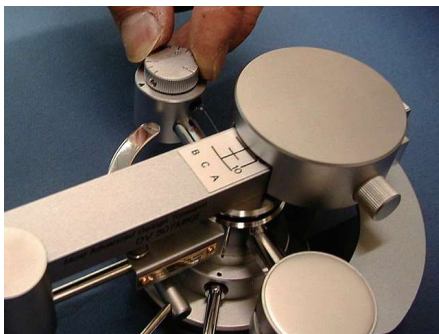
NOTE：高さ調整レバーを固定する時、締めすぎないようにしてください

6-7 アンチスキューティングの調整

通常はカートリッジの針圧（g）と同じ指示値になるように、アンチスキューティング・ダイヤルの目盛りを合わせます。

しかし実際にはインサイドフォースは針先形状、レコードの材質等により変化し、最近のラインコンタクト針に代表されるモダン針ではインサイドフォースがやや大きめになる傾向があります。

レコード再生時、左チャンネルのミストラックに気付いたときには目盛りを少し減らし、右チャンネルのミストラックに気付いたときには目盛りを少し増すようその場で調整してください。



NOTE：アンチスキューティングの調整はレコード再生中でも可能です。レコード内周の溝のない内部でゆっくりとカートリッジが内側に流れる程度が基準です。

6-8. アームリフター（キューイング）の使用法

オイルダンプ方式のアームリフターが装備されています。

（1）レコードに針先を乗せるとき

カートリッジの針先をレコード曲目位置まで持ってきて、リフターレバーをゆっくりと降ろします。アンチスケーティングの設定が強いときは、落下時針先がやや外側に振れることがありますので注意してください。



（2）レコードから針先を上げるとき

演奏を中止する位置でリフターレバーをゆっくり上げます。

NOTE: レコードに針先を乗せるとき、針先の落下位置がややレコードの外周方向にずれることがあります。これはアンチスケーティングがセットされている為です。正確な落下位置をセットする場合は一度アンチスケーティングを0にしてください。



以上で DV507MKII のセッティングは全て終了しました。このアームは、通常の使用条件では摩耗するパーツはありませんが、下記の場合は分解調整やクリーニングが必要になることがあります。その際にはお買い求めのお店が弊社まで直接お申し付けください。

- （1）アーム本体を落下させた時
- （2）アーム本体にや過度な衝撃が加わったとき
- （3）ほこりの多い環境に未使用状態で長時間放置された時
（動作感度が落ちている可能性があります）

7. 別 注

本説明書をお読みいただきありがとうございました。いつまでもアームを最上の状態でご使用いただけるよう下記の点をご留意ください。

- （1）アームをご自分で分解しないでください。
- （2）アーム本体に（特にベアリング回転部）に潤滑油などを注油しないでください。
- （3）外箱やパッキング材は保管しておいてください。メンテナンスなどの為、本機を送っていただく際必要となります。

8. 仕 様

形 式	電磁粘性方式質量分離型 ダイナミックバランスタイプ・トーンアーム
全 長	306mm (シェル取付時) : 最大 326mm
実行長	241mm (カートリッジ針先からアーム回転中心まで)
オーバーハング	15mm
オフセット角	21.5°
全 高	59mm ~ 92mm 可変
高さ調整範囲	39mm ~ 72mm (サブアームパイプ中心)
取り付け部深さ h	36mm (コネクターケーブル除く)
適合カートリッジ重量	15g ~ 35g (シェル共)
水平トラッキングエラー角	-1.1° - +2.2° (レコード内周で0°、外周で2.2°)
針圧可変範囲	0 ~ 38g (0.2g きざみ)
動作感度	水平 50mg 以下 : 垂直 40mg 以下
総重量	1,380g
出力コネクター	DIN 5P コネクター
ヘッドシェルコネクター	EIA 規格 4P コネクター
付属品	ダブル2芯シールド低容量・低抵抗ハイグレードアームコード ヘッドシェル (15.4 g アジマス調整可) 取り付け用紙テンプレート オーバーハングゲイジ 取扱説明書 保証書

ダイナベクター株式会社

〒 101-0031 東京都千代田区東神田3-2-7

TEL 03-3861-4341 FAX 03-3861-1650